

矢をつがえて扇をねらったとき「北風烈しく吹いて海は波立ち、舟ゆれて」ねらいが困難であったとある。この北風こそが武庫おろして、山越気流の特長の強くて風の息が烈しいことを示す。

ところで、六甲の北麓即ち有馬温泉、昔しの有馬郡のあるところでの吹き下ろす南風は強いという伝説はないだろうか。今のところ、はっきりと分らぬが、小倉百人一首の大宰三位の歌に

有馬山いなのださ原風吹けば

いでそよ人を忘れやはする

若しこの有馬山が六甲山であり、いなのが今の稲野なら、事によると六甲に吹きつけた南風が篠原に大きな穂波を立たせ、愛人の心を動揺させたものかも知れない。

香川景樹はこの歌をソヨソヨと吹く風と解している。然し私は山越の風の強いことを常に目撃し、又強い風が稲田を吹くとそのものすごい形相にも接している。でこの歌は穂波が非常に激動するのを見て、胸の痛みを新しくした歌と見ているが。

学

界

消

息

1. 微気象観測用湿度計に関する談話会開かる

日本農業気象学会関東支部は去る10月3日気象庁会議室で微気象観測用の湿度計についての第3回談話会を開催した。

芝 亀吉(静岡大): ミニマ湿度計について

芦沢竜之介(東大): セレン乾湿要素について

林 俊季(北辰電研): 光電管式露点湿度計について

小林寿太郎(気研): 電気湿度計について

以上の講演があり、約80名の参集があつて盛会であつた。

2. S. C. Coroniti 氏の来日

米国ボストンのAVCOに所属しているSamuel C. Coroniti氏は11月4日午前気象庁を訪問し、東管台長室で畠山久尙、川野実、内川規一、小林寿太郎、三崎方郎の諸氏と気象電気ゾンデ、大気中のイオン及び放射能測定等気象電気学の諸問題について討論した。同氏はかつて米空軍GRDのエエロゾル物理研究室主任であつたが、10月24、25、26日名古屋大学で催された日本地球電気磁気学会に出席して講演するため来朝し、そのついでに名大空電研究所、京大地球物理教室、国分寺の電波研究所、平磯電離層観測所、気象庁、国際電々会社等を訪問したのである。

3. ゴルシコフ氏、キタロフ氏の来日

ソ連科学アカデミー火山研究所火山部長であり、またIUGG(国際測地学、地球物理学連合)の火山物理分

科会主任であるゴルシコフ氏およびソ連科学アカデミー火山研究所地殻部長キタロフ氏が学術交流のため来朝した。

4. 会員荒川秀俊氏渡米

本学会員であり、気象研究所予報部長の荒川秀俊博士は、招聘によって10月5日から12月10日までの予定で渡米された。米国気象学会に出席し、マサチューセッツ工業大学で「超高層問題の協議」に参加し、またワシントン、スマット空軍基地、ハワイ大学での講演、「台風に関する諸問題の研究結果の発表、討論、意見の交換」などが予定されている。

5. 会員北岡龍海氏、大田正次氏に学位授与

本会員であり、気象庁高層課長である北岡龍海氏、および測候課長である大田正次氏は、東北大学から10月7日付をもって理学博士の学位を授与された。北岡氏の論「銀盤日射計で観測した東亜における大気こん濁係数に文はつて」、また大田氏の論文は「膨脹霧函内の霧の生成および消失に関する研究(Pollak式光電核心計による核濃度測定についての応用)である。